別紙１　　2011 年 7 月 16 日

和紙研例会資料

白戸会員案

和紙文化研究会　文献講読に関する案

これまで和紙の製法に関してさまざまな文献を読んできているが、他の分野に関する文献も含めて明治期以降の資料から読解することを提案する。

２０１１年５月現在、入手した資料は以下の通り。
選択基準は国立国会図書館の近代デジタルライブラリーにおいて公開されている古い順

	書名	著者名	刊行年	分量
１	改正諸国紙名録　小間紙名式・表具之用具	尾崎富五郎	明治１０	４２丁
２	紙業講話筆記	新谷出来太郎述	明治３１	２８ｐ
３	楮樹栽培と諸紙製法	梅原寛重	明治４４	２８ｐ
４	楮文学　一名・楮考	関無外	明治４５	２０ｐ

１は各地域の紙のカタログ
２は製紙業についての講演記録
３は楮の栽培方法と各地での製紙技術
４は楮に関する考察

講読方法
資料の分量により担当者を決めて、解説をしながら読み進める。
例）２の『紙業講話筆記』は２４項目なので３～４人くらいで分担講読

但し、上記以外にも和紙関係の資料は沢山あるのでまだ検討が必要。
検討方法として以下の手順が考えられる。

①ワーキンググループの立ち上げ：購読したい資料を探す（主に会員歴の短い方）
→現在、成田潔英『楮及楮紙考』、小栗捨蔵『日本紙の話』、関義城『江戸明治手漉紙製造工程図録』に和紙に関する文献目録があるので、その中から探す
②資料検討委員会の立ち上げ：月例会で講読する資料を決定する（会員歴の長い方）
ワーキンググループが選んだ資料から、月例会のテキストとして適切かどうか判断する

①と②のメンバーは年限を設けて交代することを前提とする。　　以上